



豊田 文一先生逝去

富山県農村医学研究会の創立と発展に中心的役割を果たされました豊田文一先生は、平成3年3月15日午後1時35分逝去されました。

昭和44年11月、本会は豊田先生を始めとする各関係機関の努力で創立されました。爾来、今日まで本会の会長として、富山県における農村医学研究の発展に尽力されました。その研究姿勢は、常に、農村の現実から出発するところにありました。

先生は、昭和15年に富山県産業組合病院（現在の富山県厚生連高岡病院）の耳鼻咽喉科医長として赴任されました。赴任直後より、巡回診療班を組織して、積極的に農村地区に入れ、農村の人々と融れ、農村の人の健康を守るために何が必要かを、そこに生きている人々との語らいで発見することを無上の喜びとしてこられました。以後、昭和30年農協高岡病院院長、昭和38年金沢大学医学部耳鼻咽喉教授、昭和46年同学部長、昭和48年金沢大学長となられ、また昭和54年に退官後、富山県農村医学研究所長となられ、不治の病の床につかれるまで、農村から学ぶという姿勢は生涯変わることがありませんでした。

農村の現実を現村における健康管理の出発点にする、この実学の精神は先生の生命そのものであり、先生の農村医学研究の原点でした。この精神に基づき幾多の研究業績を上げられ、かつあらゆる方面の研究の指導に当たってこられました。

また、先生は昭和27年、日本農村医学会の創立者の一人として参加され、以来39年の長きにわたり、学会の理事として、また、昭和32年には日本農村医学会会長として、日本の農村医学、さらには、国際農村医学研究の発展に大きな貢献をされてきました。

ここに、先生の多大なる功績を偲ぶとともに、心よりご冥福をお祈りする次第であります。

主 な 経 歴

略 歴

明治41年 富山市に生まれる
昭和7年 金沢医科大学（現金沢大学医学部）卒業、耳鼻咽喉科学教室にて研究に従事
昭和12年 医学博士
昭和15年 富山県産業組合病院（現厚生連高岡病院）耳鼻咽喉科医長
昭和30年 農協高岡病院院長（現厚生連高岡病院）
昭和38年 金沢大学教授（医学部耳鼻咽喉科学教室）
この間、日本病院協会理事、日本農村医学会会長、富山県医師会長、日本医師会理事、日本耳鼻咽喉科学会理事等を歴任。
昭和46年 金沢大学医学部長
昭和48年 金沢大学長
昭和54年 退官 金沢大学名誉教授

栄 誉

昭和54年 勲二等瑞宝章
昭和57年 高岡市名誉市民
表 彰
昭和38年 富山新聞文化賞
昭和46年 高岡市民功労賞
昭和52年 日本農村医学会賞
昭和54年 北国文化賞
昭和55年 北日本新聞文化賞
昭和58年 富山県置県100年記念表彰
昭和61年 日本医師会創立記念表彰

日本農村医学会理事、同幹事、富山県農村医学研究会会長、日本耳鼻咽喉科学会名誉会員、日本医学会評議員、富山県医療審議会会長、富山県厚生連顧問他を歴任。

告 別 の 辞

先生、永い間本当にご苦勞様でした。私にはまだお別れした気が致しません。今にも「越山君、どうかね」と声がかかるとような気がします。

先生の八十年余りの人生行路は日々充実し大きな功績に輝いています。

先生の農村医療への取り組みは、様々な困難を克服し「農民が自らの命を自ら守ろうと」として創設された産業組合病院、現在の厚生連高岡病院に奉職された昭和15年から始まりました。ここで、先生の卓越した医療が行われました。

先生は、病院での治療に当たる一方、「農村での手遅れの患者さんを少しでもなくする」ことを人生の目標として、自ら先頭に立って巡回診療班を組織し、県内外を駆け巡ってこられました。この姿勢は終生変わることなく、不治の病の床につかれるまで続きました。

戦争中に軍医として南太平洋の孤島を死守され、帰還後は副院長、院長の職を奉ぜられると共に、富山県医師会長としての多忙な責務を兼務されました。更に先生の学究的な精神は、大学教授、医学部長、学長として栄進されると共に、益々幅広く、そして深く発揮され、まさに前代未聞の輝かしい職務を重ねられました。

それは、先生のためまない学究的な科学する心、卓越した識見と医療技術、たくましい実践的行動力や豊かでやさしい人間性によるものと思います。11月、病の床に就かれた時も「ホスピスを見てきたが、今度はホスピスの事を調べてみようと思う」と資料集めをされ、その学究的態度は最後まで変わることがありませんでした。

このような多彩な重責の中で特異なことは、先生は常に農業、農村に愛情を持ち、大地や

自然を見つめ、それが生涯の活動の原点としてこられた事です。農業は命を産み、命を育てる礎であり、民族の魂を作る礎でもあると思っています。

先生は40年前、日本農村医学会の創設に当たられ、また20年前には私共、富山県農村医学研究会を組織し、常に率先して会を指導されてこられました。そして、会の活動範囲も国内はもとよりアジアを始め国際的に発展してきております。

私は先生と数回にわたり、アジア、アメリカ、フランス、チェコスロバキア、オーストリア、ニュージーランド、インドネシアや中国などにおける国際農村医学会にお伴をさせていただきました。先生は常々「農村を見れば、その国の本当の姿がわかる」と言われ、夜がけ、朝がけで直接地域住民に接し、生命や健康の背景にある日常生活、栄養状態、文化、経済など多角的な調査をされました。その活力、バイタリティに常に驚き感服したものです。

先生は、平成2年末まで私共の会の司会をされ、平成3年の事業計画や展望について述べられました。変貌する社会環境の中で、特に高齢化社会におけるプライマリーケアの構想が述べられその展開を希望され、また台湾やインドネシアとの学術交流にも意欲を示されておられました。

先生は常に過ぎ去ったことは語らず、常に明日を夢見ていました。

私共、富山県農村医学研究会は今、忽然として大きな支柱を失い、当惑の思いを禁じ得ません。しかし、先生が生涯を通して、農村医療に捧げられた愛情とその情熱は、会員に浸みこんでおります。先生が精神が続くことを信じ、努力していきたいと思ひます。

また、先生が温かく包んでいらっしゃった
奥さんやお子様を初め、ご家族が健やかで、
ご立派になっておられることが私共のせめて

もの救いです。

先生、本当に長い間有難うございました。
安らかにお休みください。さようなら。

平成3年3月18日

富山県農村医学学会研究会

理事 越山健二